



1. 1階一般開架
2. 東側外観
3. 1階から3階までの吹抜け空間



日建連表彰2021



第62回BCS賞

松原市民松原図書館 「読書の森」

選定理由 【選考委員】
野城智也・国府田道夫・賀持剛一

公園の溜池の中という特異の立地に建ち、周囲に点在する古墳を想起させるような土木的ともいえるマッシブな赤みを帯びた異形の塊が置かれている、というのが、この建築を訪れる者が受ける第一印象である。実際、空間は厚さ六〇〇ミリという土木スケールのコンクリートの壁で囲まれた箱ともいえるべき構成をとる。

ところが、このマッシブな箱に一旦足を踏み入れると、その印象は一変する。利用者の前には、明るく、視界が開かれた軽快な吹抜けによる、一体的空間が広がる。平面計画上は直交する基本軸がなく、書棚も並行配置されていない。にもかかわらず、利用者とつってオリエンテーションがわかりやすく、本も探しやすい、読書をするための森のような

空間が展開する。実際に、利用者にも好評であるという。

外観上、一見ランダムまたは審美的に穿たれたようにみえる独特なかたちの開口部は、内部環境に呼応して周到に検討された結果であり、その一つひとつが図書館内部のそれぞれの場所に、独特の視界・風景と照度・光の効果を与えている。また、一体的な空間構成は、室内環境調整上、決して容易ではない課題を内包すると推察されるが、鉄筋コンクリート壁の持つ熱容量を巧みに活用し、床放射空調と組み合わせつつ、安定し快適な熱環境を実現し、かつ運用エネルギーの節減にも効果をあげている。

このような、よく練りあげられたダイアグラムや、常識にとらわれないユニークな環境調整方法は、施工者・設計者・環境エンジニアなど設計・施工チームが、デジタルモデルを共用し、各種シミュレーションを

活用して、要所ごとのディテールと建築全体の構成を繰り返し検討した成果の賜物といつてよい。論理が明確で、文字通り計算し尽くされた本建築は、並々ならぬ設計者の力量を示すとともに、デジタル化されたモデルにもとづいた設計が、いかなる可能性を建築に拓くのかを具体的に示した嚆矢となろう。見れば見るほどに考え抜かれた作品である。建築主である松原市の担当職員は、関係者との協議を含む組織内外の調整を行い、発注側の一元的な窓口として、設計プロセスに深く関与した。また、施工者が松原市へのプロポーザルにあたって、設計者

や環境エンジニアからなる設計チームを組成し、プロジェクト全体にわたって、設計・施工が融合する体制を機能させたことも特筆に価する。溜池を埋め立てず、溜池の中に建てるという創造的な提案が生まれ大幅な工期短縮がもたらされたのは、これらの体制がもたらした成果といえる。施工者が、プロジェクトマネージャ的な役割を果たし成果をあげたことは、今後の設計施工融合のあり方に大いなる示唆を与えるものである。

以上のようにBCS賞の主旨からみて、本建築は顕彰するに誠にふさわしい作品である。

松原市民松原図書館 「読書の森」 概要

- 所在地 大阪府松原市田井城3-1-46
- 建築主 松原市
- 設計者 ㈱鴻池組、(有)マル・アーキテクチャ、オーヴ・アラップ・アンド・パートナーズ・ジャパン・リミテッド
- 施工者 ㈱鴻池組
- 竣工日 2019年11月30日

- 敷地面積 1,643㎡
- 建築面積 1,043㎡
- 延床面積 2,987㎡

- 階数 地上3階、地下1階、塔屋1階
- 構造 鉄筋コンクリート造



詳細や他の写真などは
左記のQRコードから
Webページに
アクセスしてご覧ください。

《日建連表彰2021 第62回BCS賞受賞作品》 有明体操競技場/大宮区役所・大宮図書館/軽井沢風越学園/The Okura Tokyo/大倉集古館/渋谷ストリーム/昭和電工(大分県立)武道スポーツセンター/大丸心齋橋店本館/高崎芸術劇場/知立の寺子屋/日本橋室町三井タワー/日本橋スマートエネルギープロジェクト/東大阪市文化創造館/福田美術館/松原市民松原図書館「読書の森」/ミュージアムタワー京橋/ミラion(長崎県立長崎図書館、大村市立図書館、大村市歴史資料館)

BCS賞

BCS賞は、建築の事業企画・計画・設計・施工、環境とともに、供用開始後1年以上にわたる建築物の運用・維持管理等を含めた総合評価に基づいて選考し、建築主・設計者・施工者の三者を表彰する建築賞です。この賞は、1960年にはじまり2021年で62回を数えました。